

「白鳥の雅楽」

雅楽の歴史

1400年程前、朝鮮・中国から伝わり、日本固有の音楽や舞と合わせて、日本流にアレンジして、平安時代に、日本の雅楽として完成。

朝廷（天皇が政治を行う所）に楽隊を置いて、神社仏閣の祝い事に、演奏披露された。

その後は、神社やお寺が引き継いで、近年は大事な伝統文化と言う事で、それぞれの地域で、様々な人が受け継ぐようになってきた。

雅楽は、世界最古のオーケストラと言われる。

ヨーロッパで、今のオーケストラの原型が出来たのは、約300年前。

指揮者は居りません。奏者の阿吽の呼吸で演奏されます。

白鳥町の雅楽は、明治35（1902）（115年前）年石徹白で始まり、北濃村に下りてきて、白鳥区では、大正4年（1915）（102年前）に来通寺の仏事で演じられております。

昭和48年（1973）（44年前）に白鳥雅楽会が組織され、神社、寺院における儀式に奉仕するという精神で活動し、現在に至っております。

現在、演奏者は15人。平均年齢は65歳。かなりの高齢化です。

若手不在は、消滅の危機です。皆さん覚えて、跡を継いで下さい。

歴史のある、日本の伝統文化です。未来に繋いでください。

演奏する楽器

笙（ショウ）、箏（ヒチリキ）、龍笛（オウテキ）、大太鼓（ダダイコ）

鞆鼓（カッコ）、鉦鼓（ショウコ）

演奏する曲目

越天楽（エテンラク）、音取（ネトリ）、抜頭（バトウ）、五常楽（ゴジョウラク）

盤渉越天楽（バンシキエテンラク）

越天楽（エテンラク）

越天楽とは、雅楽の中で一番有名な曲で、主におめでたい時に演奏されます。

ご存知、筑前民謡“黒田節”もこれが元になったとも言われます。

音取（ネトリ）

1 音楽を演奏する前に、楽器の音調を試みるための、短い一種の序奏。神楽・雅楽・能楽などで、多くは笛を主に行われる。

2 雅楽で、管弦合奏の始めに作法として行う一種の序奏。楽器の音調を整え、[雰囲気](#)を醸成する。

抜頭（バトウ）

舞は、唐の后が嫉妬して鬼になったとも、また父親を猛獣に噛まれた子が獣を 探し求め殺し歓喜する様ともいわれています。天平年間にわが国に伝えられたと

五常楽

唐の太宗の作で、人の道としての仁、義、礼、智、信を五つの音にあてはめて曲にしました。

盤渉越天楽（バンシキエテンラク）～雅楽六調子の内の一つ。

皆さん、やってみませんか！

「雅楽」 ～平安の^{みやび}雅にふれよう！

雅楽は宮中、貴族の間で育まれた古式ゆかしい音楽です。

白鳥の雅楽には現在、15名が在籍し、演奏をしております。

主な演奏時は白鳥神社例祭、各寺院のご遠忌、各冠婚葬祭、文化祭 等。

この伝統文化を若い人に、継承をしていただきたいと奏者を募っております。

初心者大歓迎です。意欲があれば、年齢、男女は問いません。

楽器や衣装は、当方で準備いたします。会費は無料です。

練習は夜、週に1回伝承センターで行います。

使用楽器

笙（ショウ）、篳篥（ヒチリキ）、龍笛（オウテキ）、

大太鼓（ダダイコ）、羯鼓（カッコ）、鉦鼓（ショウコ）

演奏曲目

音取（ネトリ）、越殿楽（エテンラク）、抜頭（バトウ）、

五常楽（ゴジョウラク）盤渉越殿楽（バンシキエテンラク）等。

平成24年9月 白鳥神社 例祭



興味のある方は下記までご連絡下さい。

☎090-4869-4299～曾我 和美

☎82-2421～西村 吉郎

☎090-3153-3576～瀬上 恒夫

☎82-2159～前畑 恒雄

☎090-4215-4225～井俣 潤

☎82-6146～岩城純一

楽器の紹介



笙 (ショウ)



演奏風景



龍笛 (オウテキ)



箏篳 (ヒチリキ)



鉦鼓 (ショウコ) と大太鼓 (ダダイコ)



羯鼓 (カッコ)

現在のメンバー

瀬上齊二郎、曾我和美、瀬上恒夫、岩城純一郎、原 仁三、野々村薫 荒井庄二、

前畑恒雄、西村吉郎、曾我幸男、井俣 潤、曾我朋史、松井幸四郎。